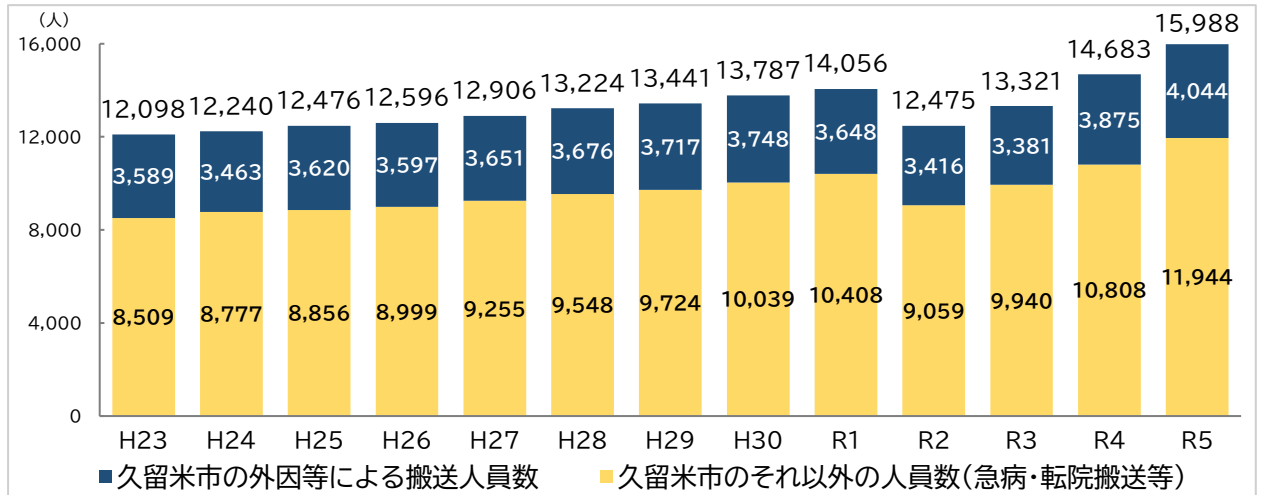


4 救急搬送に関するデータ(久留米広域消防本部救急搬送データ)

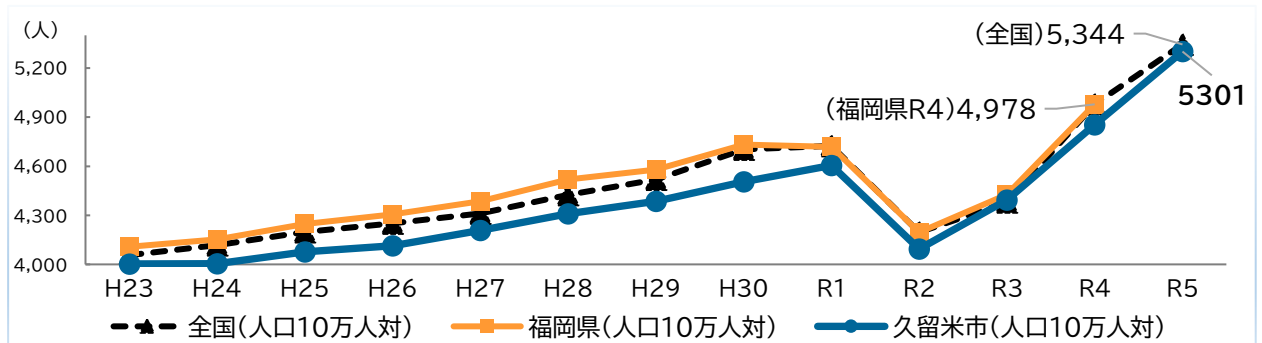
(1) [図 4-1]救急搬送人員数

救急搬送人員数全体及びけがや事故による救急搬送人員数は増加傾向にある。

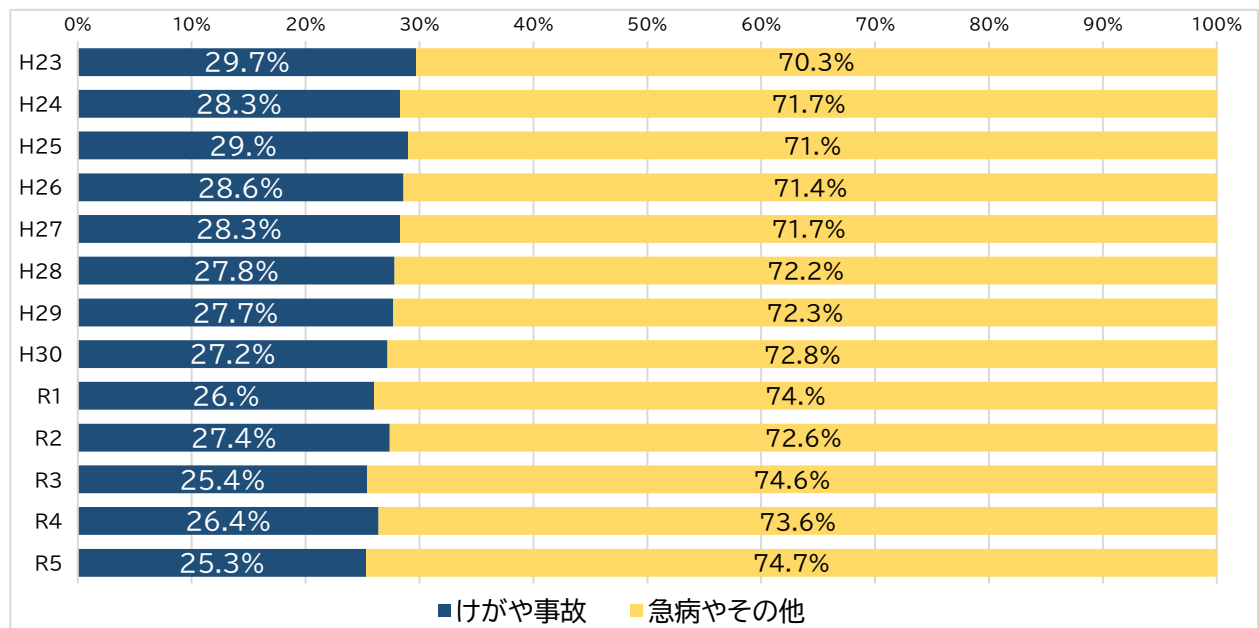


(2) [図 4-2]人口 10 万人当たりの救急搬送人員数 (外因及び急病・転院搬送等含む)

国や福岡県の値と同様に推移している。

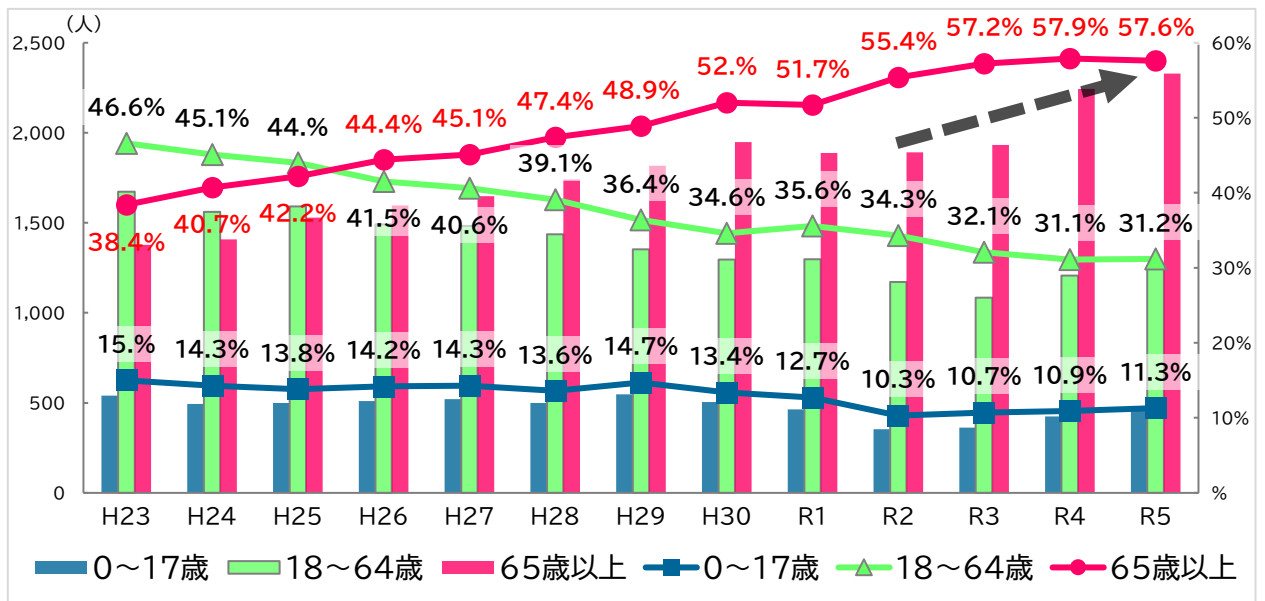


(3) [図 4-3]緊急搬送に占める外的要因 (けがや事故) による搬送割合



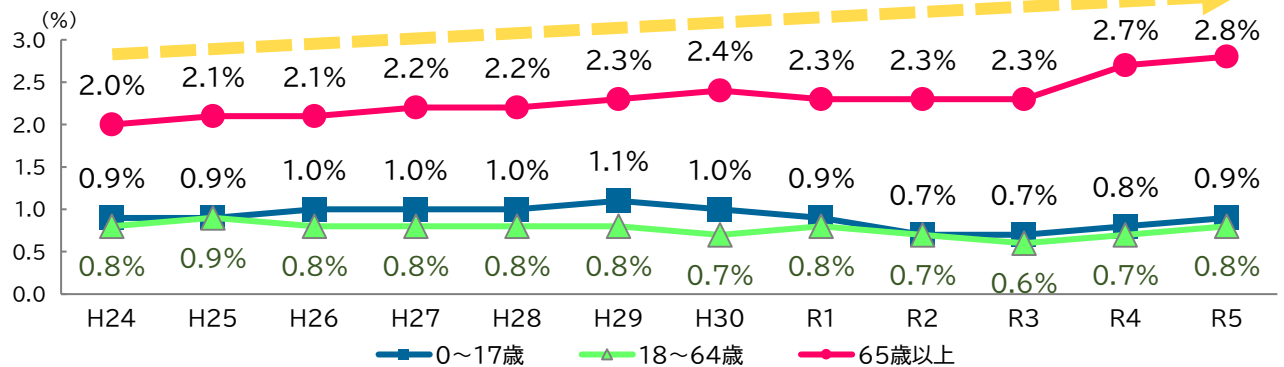
(4) [図 4-4]年齢層別外因による救急搬送人員数

0~17 歳、18~64 歳の搬送数は減少している一方で、65 歳以上の高齢者の搬送数が伸びている。



(5) [図 4-5]年齢層別外因による救急搬送の発生率

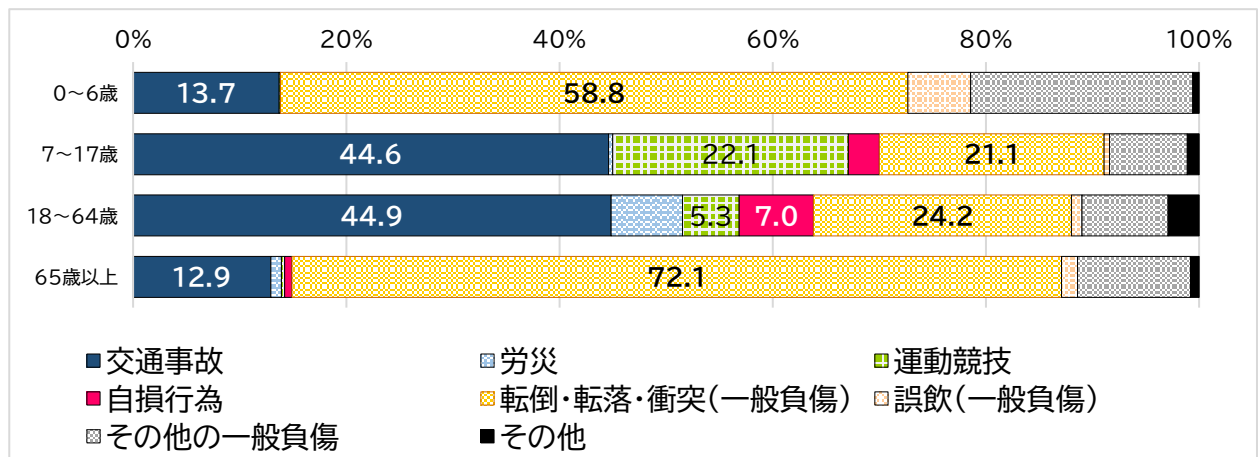
65 歳以上の高齢者の救急搬送の発生率は、増加傾向にある。



(6) [図 4-6]年齢層ごとの受傷原因

7~17 歳と 18~64 歳では、「交通事故」の占める割合が約 45%と高くなっています。

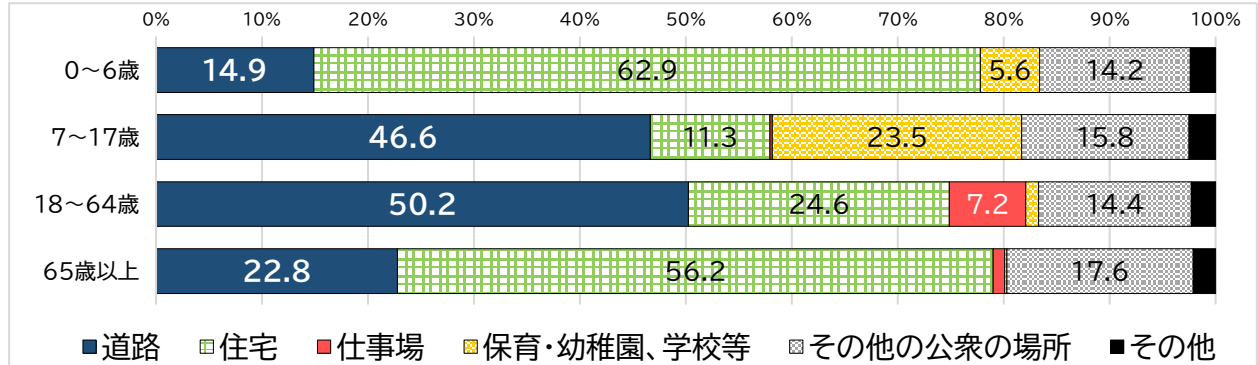
また、0~6 歳と 65 歳以上では、「転倒・転落」の占める割合が高く、特に 65 歳以上では、70%以上を占めています。さらに特徴として、0~6 歳では「誤飲」、7~17 歳では「運動中のけが」、18~64 歳では「労働災害」や「自損行為」が他の年齢層と比較して高くなっています。



(7) [図 4-7]年齢層ごとの受傷場所

0～6歳と65歳以上では、「住宅」の占める割合が約60%と高くなっています。

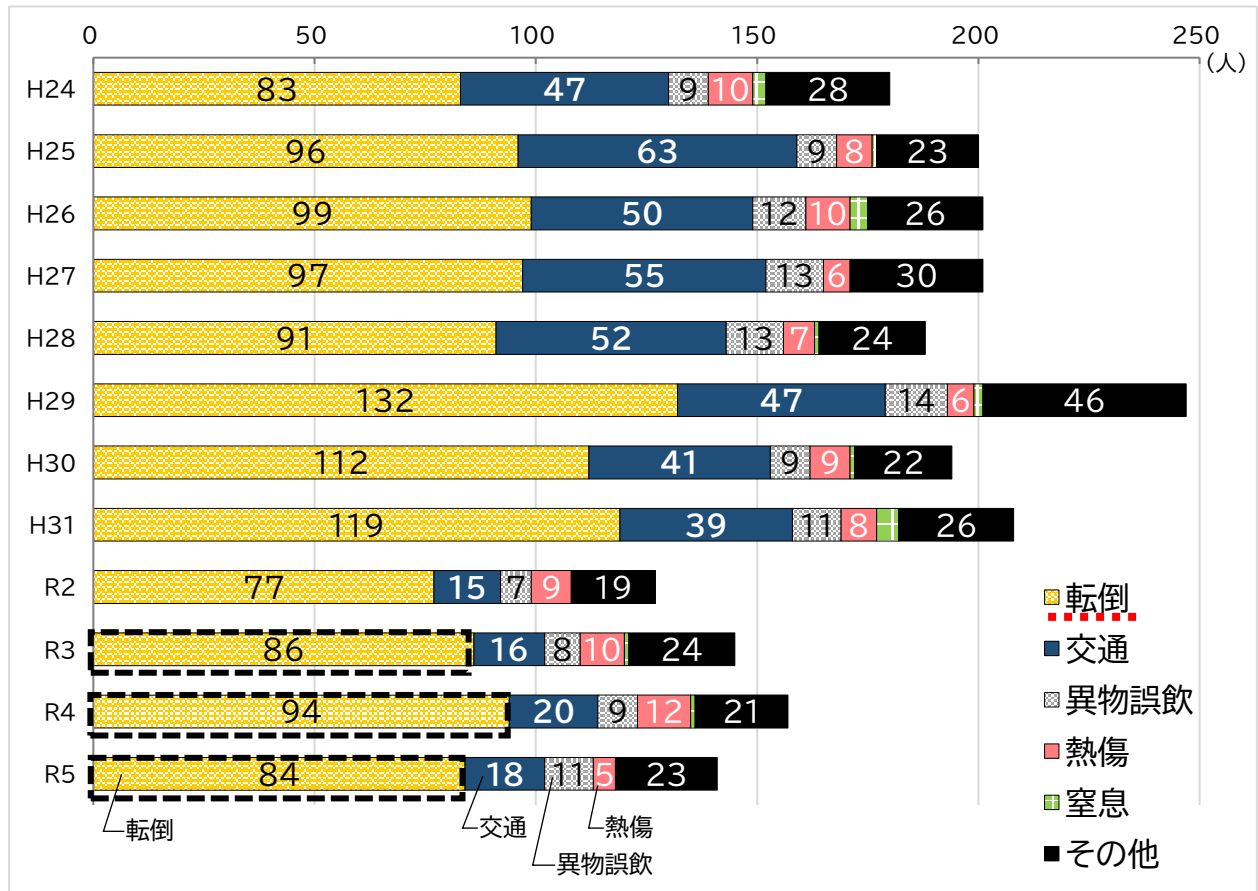
また、7～64歳では、「道路」の占める割合が約50%と高くなっています。さらに特徴として、7～17歳では、「学校等」の占める割合が他の年齢層と比較して高くなっています。



(8) 年齢層ごとの事故種別内訳

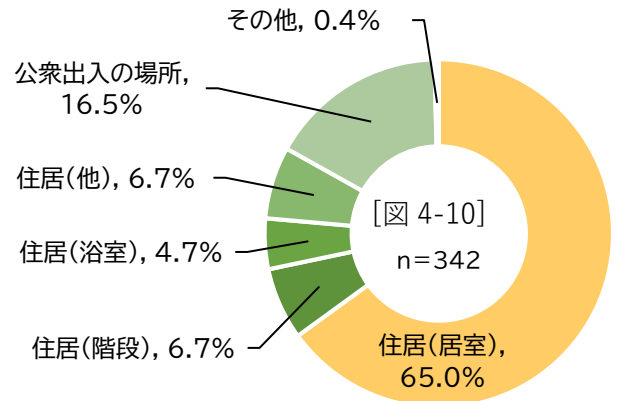
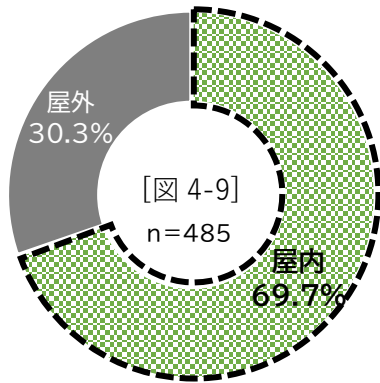
① [図 4-8]乳幼児 (0～6歳)

コロナ禍以降、搬送人員数は増加傾向にある。特に転倒・転落による搬送が増加している。

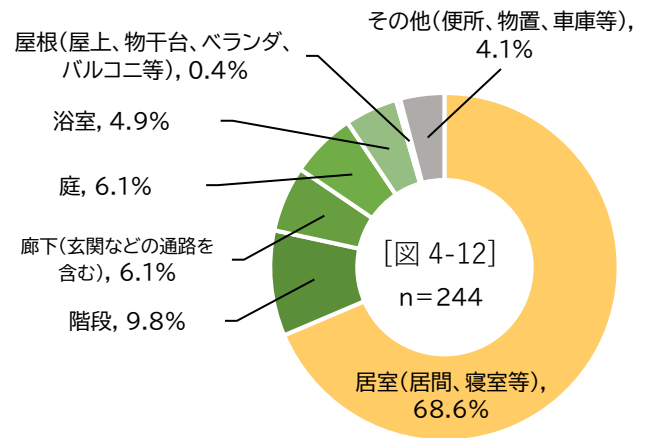
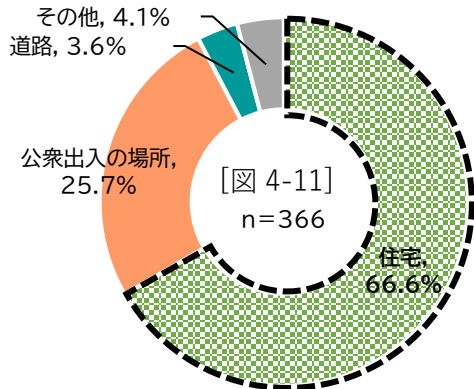


乳幼児の転倒場所の多くは、屋内である。また、屋内のうち、約7割が居室で発生している。

■乳幼児の転倒場所の割合 (R2~5年の合計) → ■屋内の場所 (※R2~5年の合計)
【屋内・屋外】

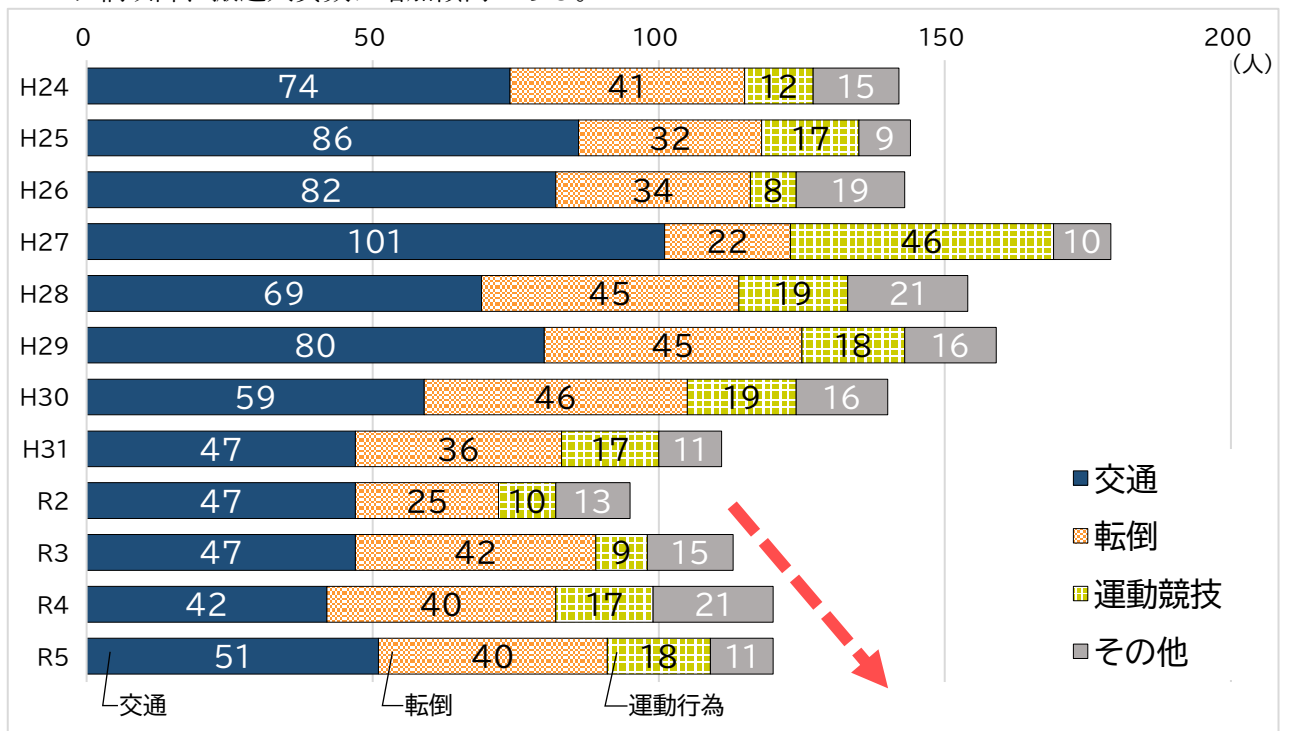


■乳幼児の転倒場所の割合 (R2~5年の合計) → ■住宅の内訳 (※R2~5年の合計)
【住宅・公衆出入の場所・道路・その他】



②[図 4-13]小学生

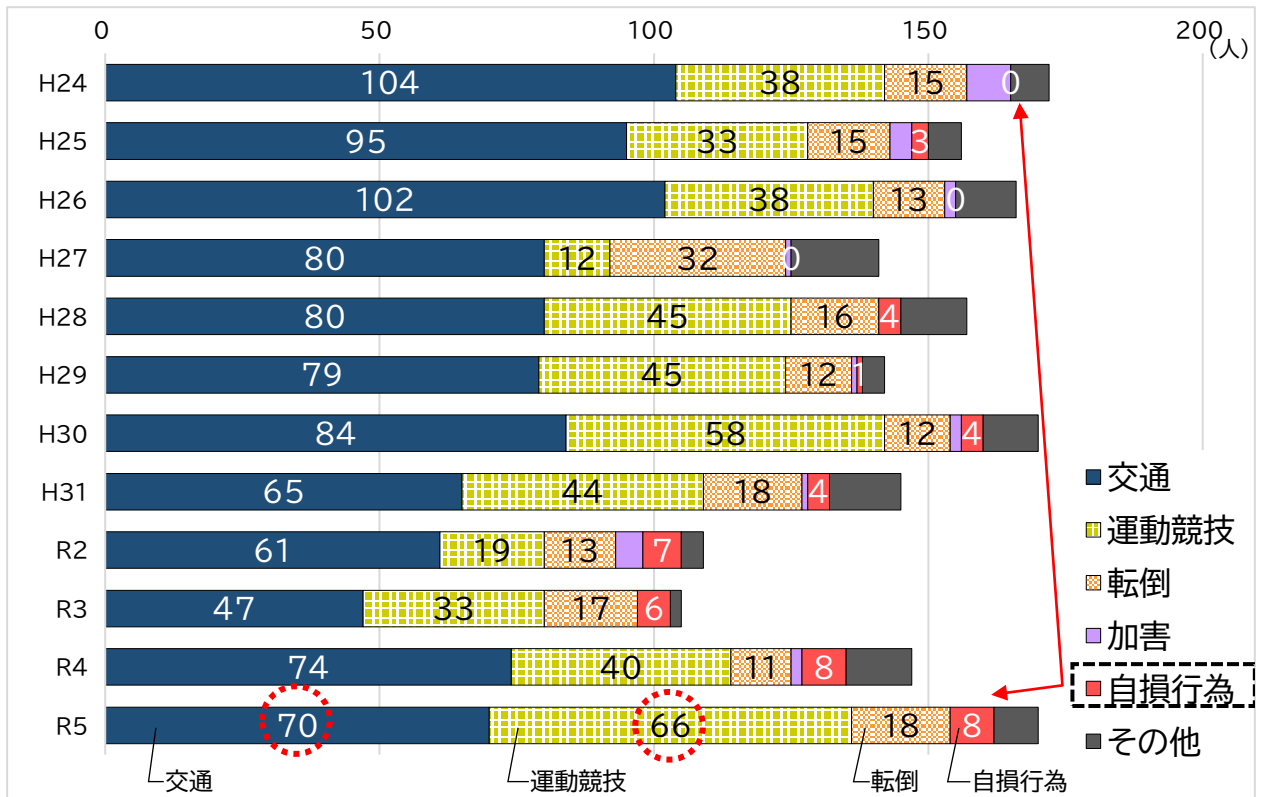
コロナ禍以降、搬送人員数は増加傾向にある。



③[図 4-14]中高生

近年は交通事故や運動競技による救急搬送が急増している。

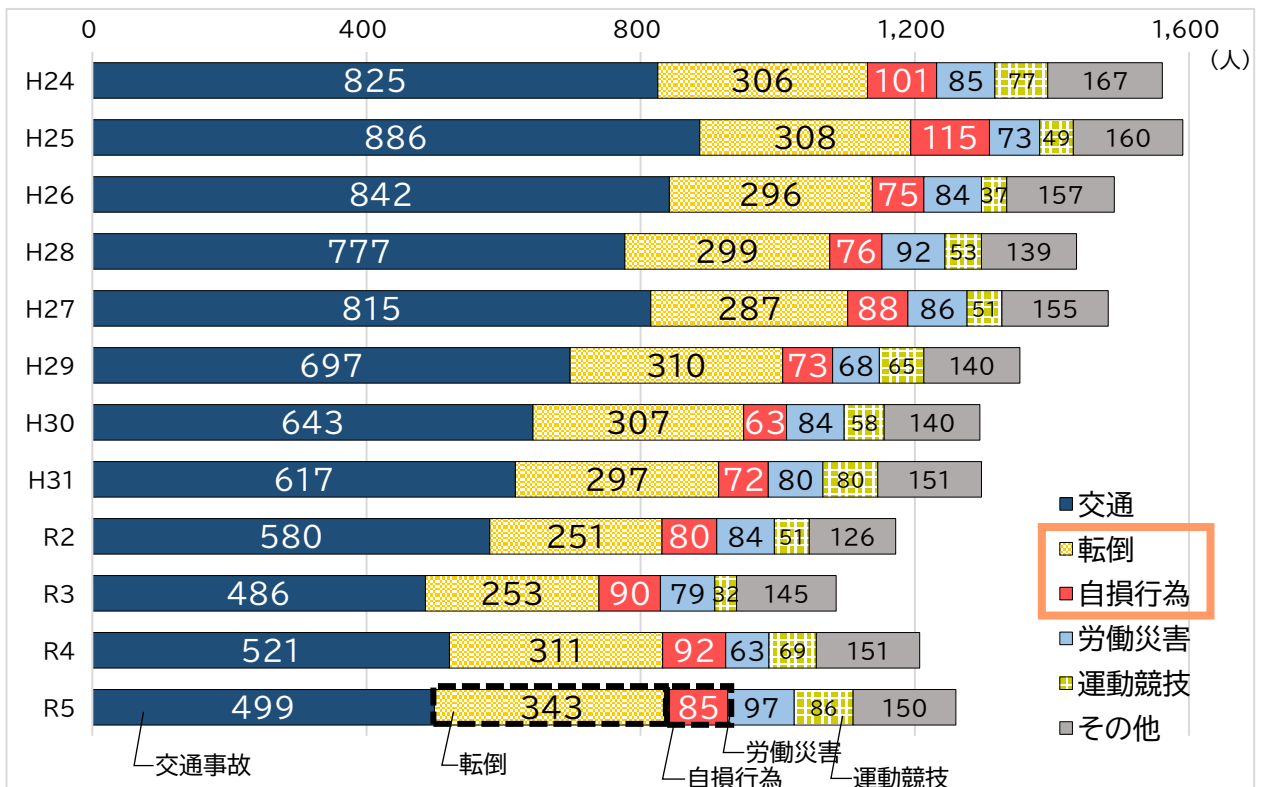
また、以前と比べ自損行為による搬送件人員数が増加している。



④[図 4-15]成人

H30 年以降、自損行為による搬送数が増加傾向にある。

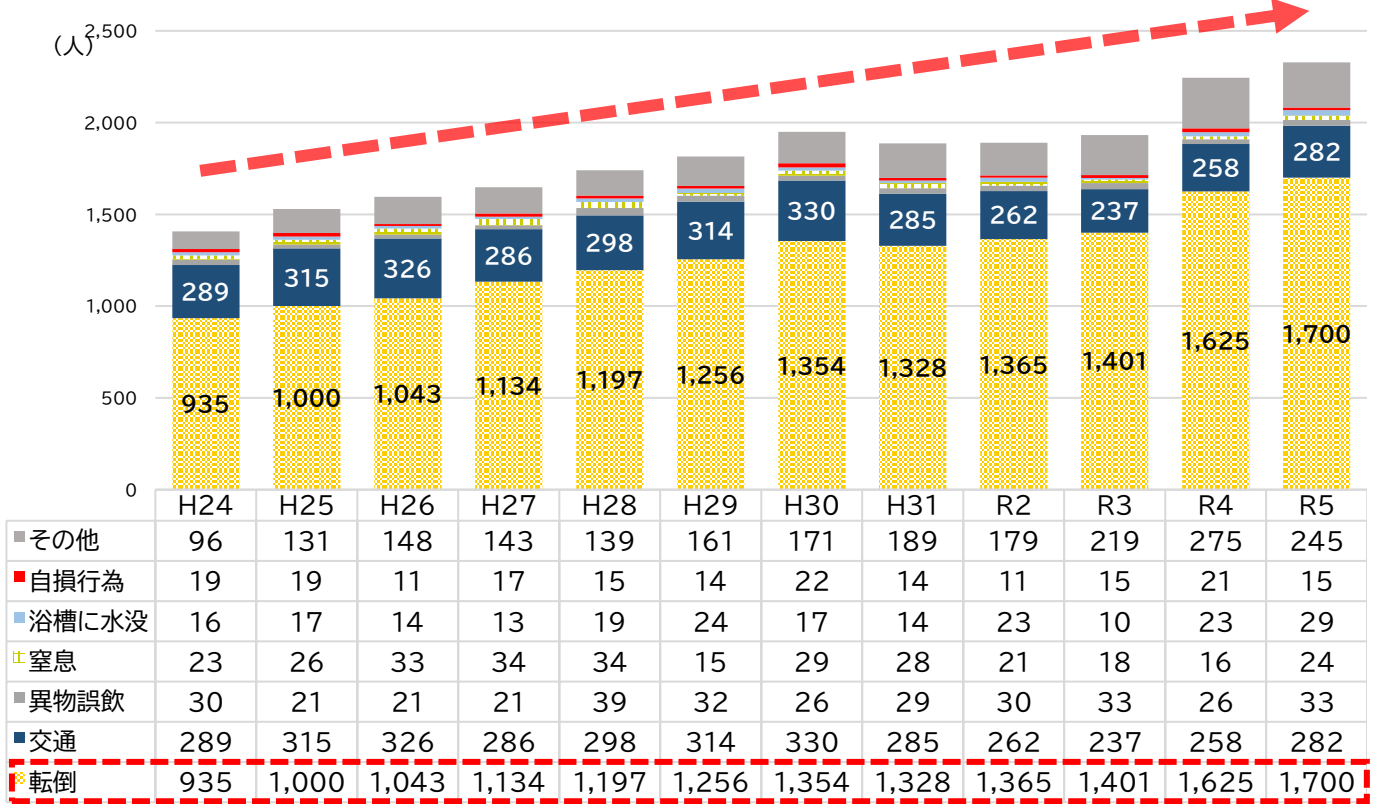
また、コロナ禍以降は転倒・転落等による搬送が大幅に増加している。



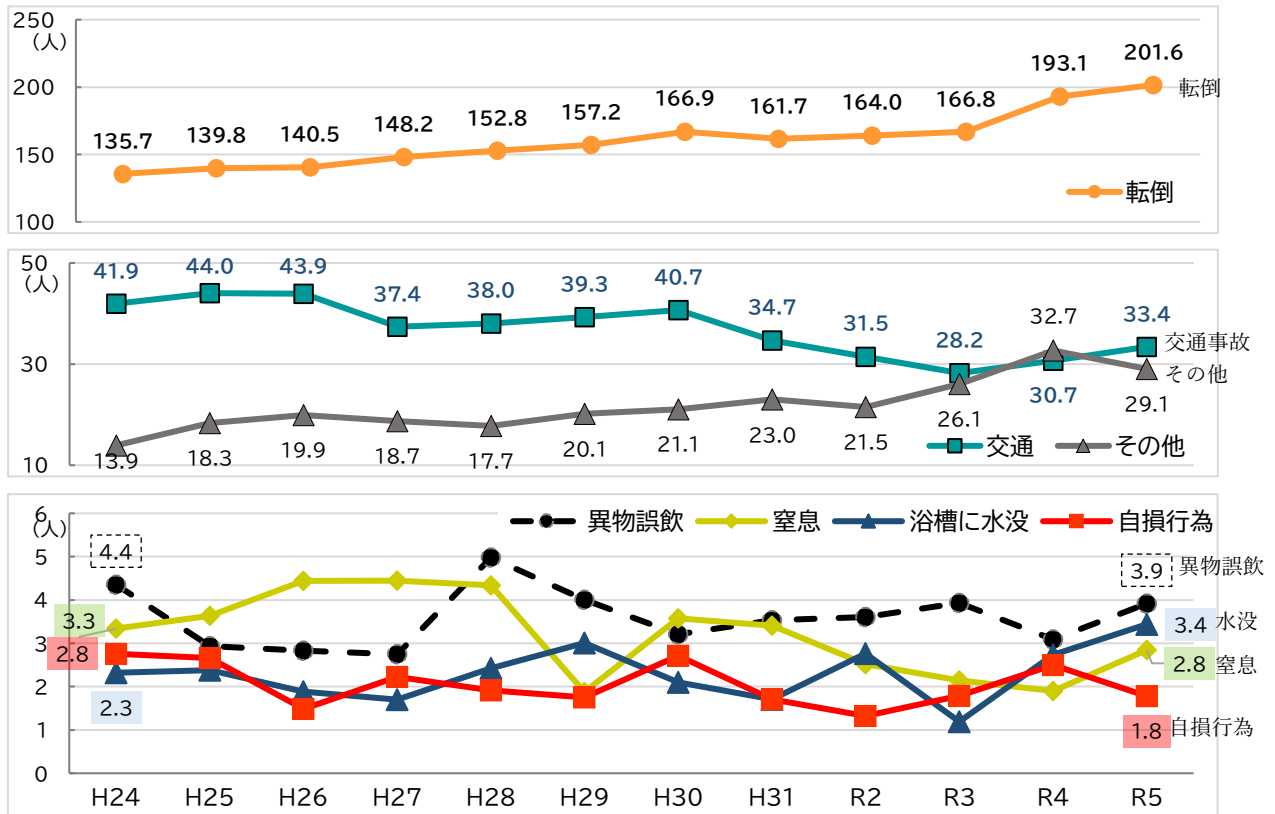
⑤[図 4-16]高齢者

救急搬送人員数は増加傾向にある。特に、転倒転落による搬送数が増加している。

一方で、交通事故による搬送人員数は長期的に減少している。



■[図 4-17]高齢者人口 1 万人当たりの事故種別の救急搬送人員数

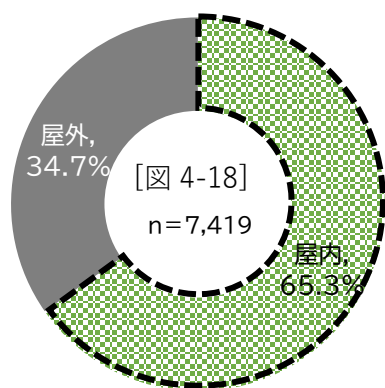


転倒場所は、60～70%が屋内である。

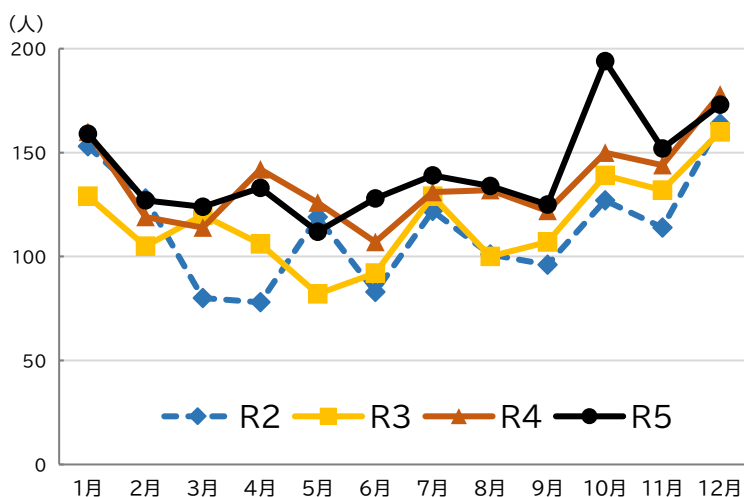
また、10月から1月にかけて転倒による搬送人員数が多くなる

■高齢者の転倒場所の割合

(R1～5年の合計)

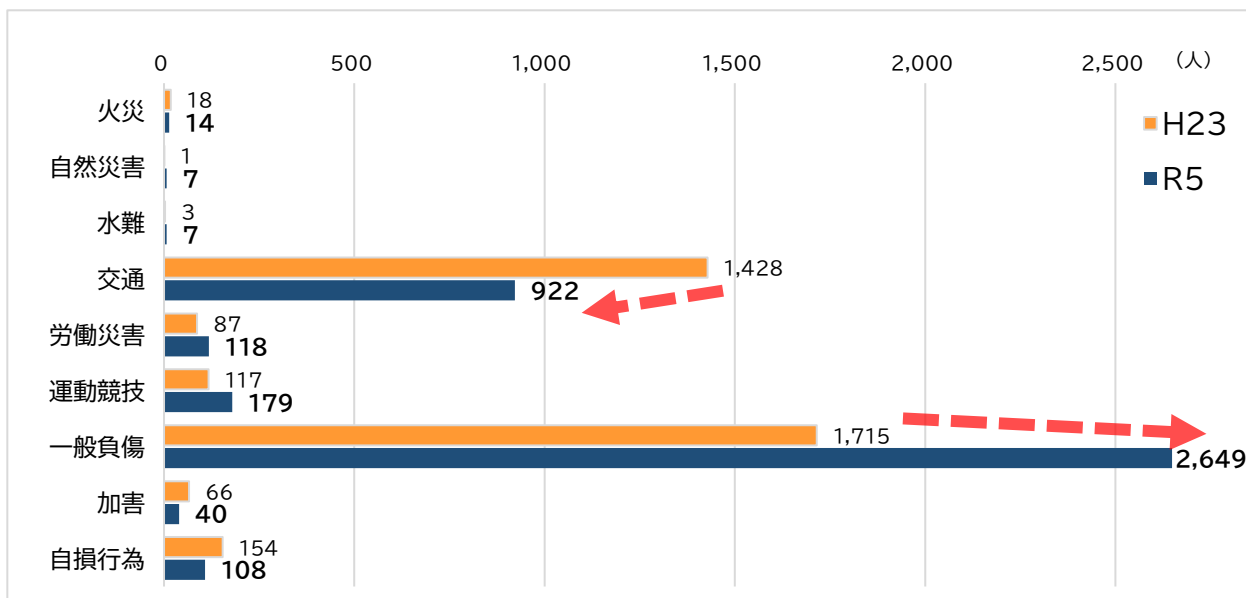


■[図 4-19]月ごとの高齢者の転倒による搬送人員数



(9) [図 4-20]事故種別ごとの搬送人数 (全年齢)

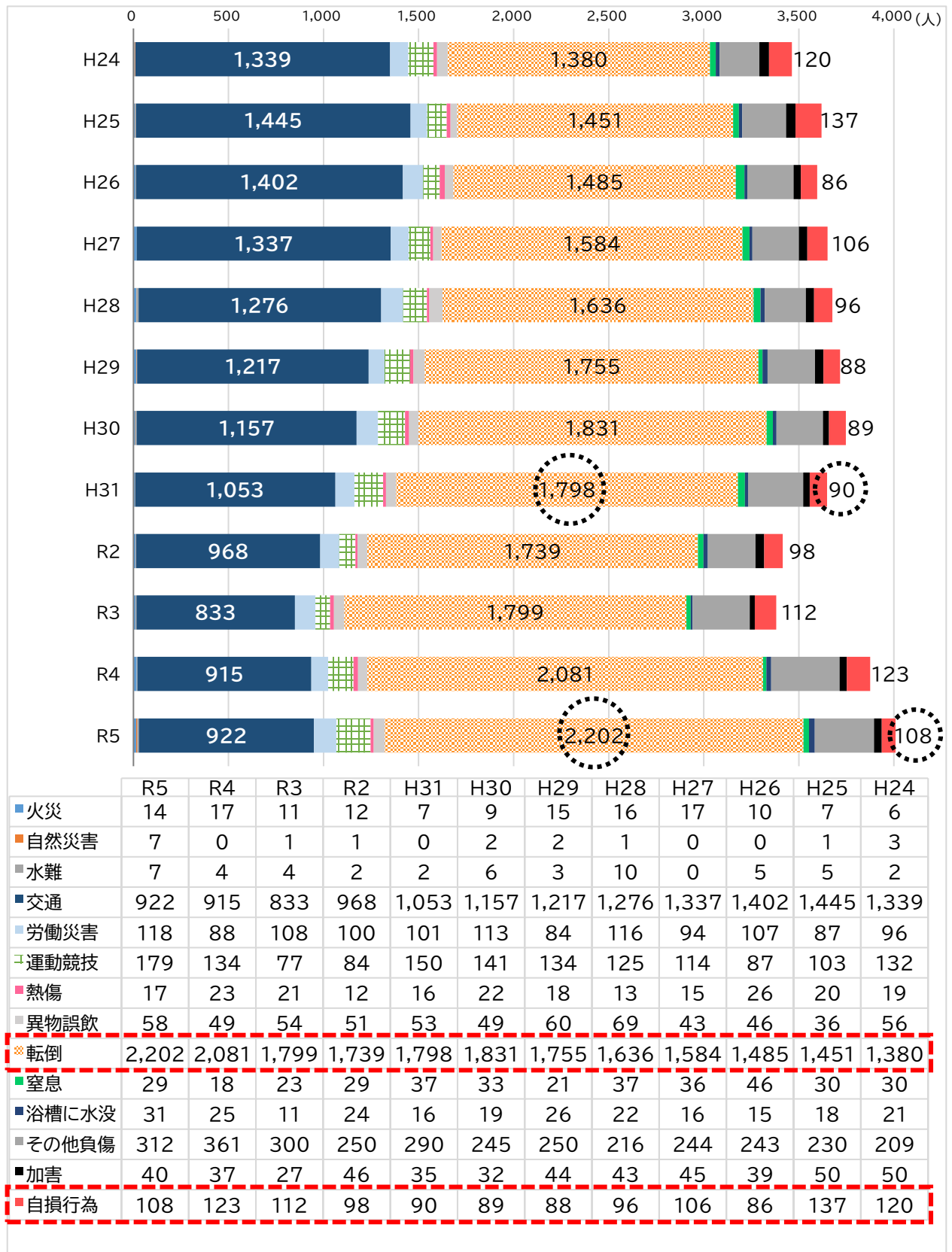
事故種別を見ると、SCの取り組みを始めたH23年と同様に、現在も「交通事故」と「一般負傷」が圧倒的に多いが、交通事故による搬送は減少し、一般負傷は大幅に増加している。



※一般負傷：転倒(転落)、熱傷、誤飲、窒息等

(10) [図 4-21]事故種別ごとの搬送数 (全年齢)

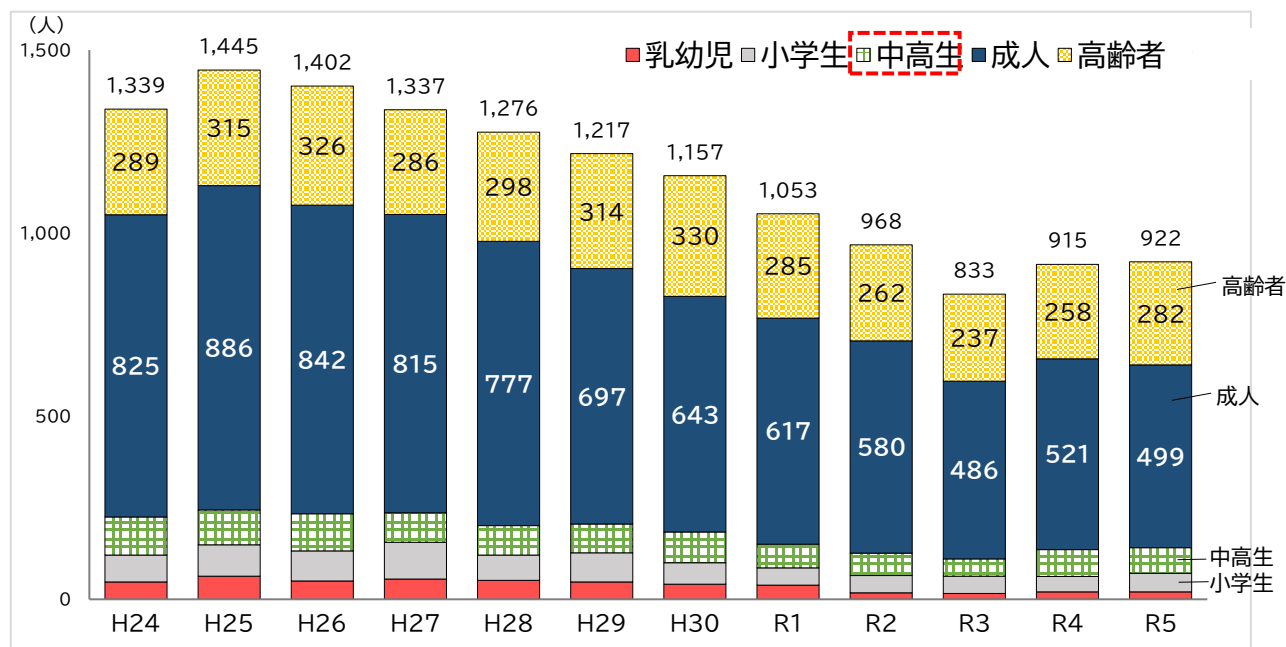
転倒・転落等と自損行為による搬送がコロナ禍前より増加している。



(11) 事故種別ごとの年齢別内訳

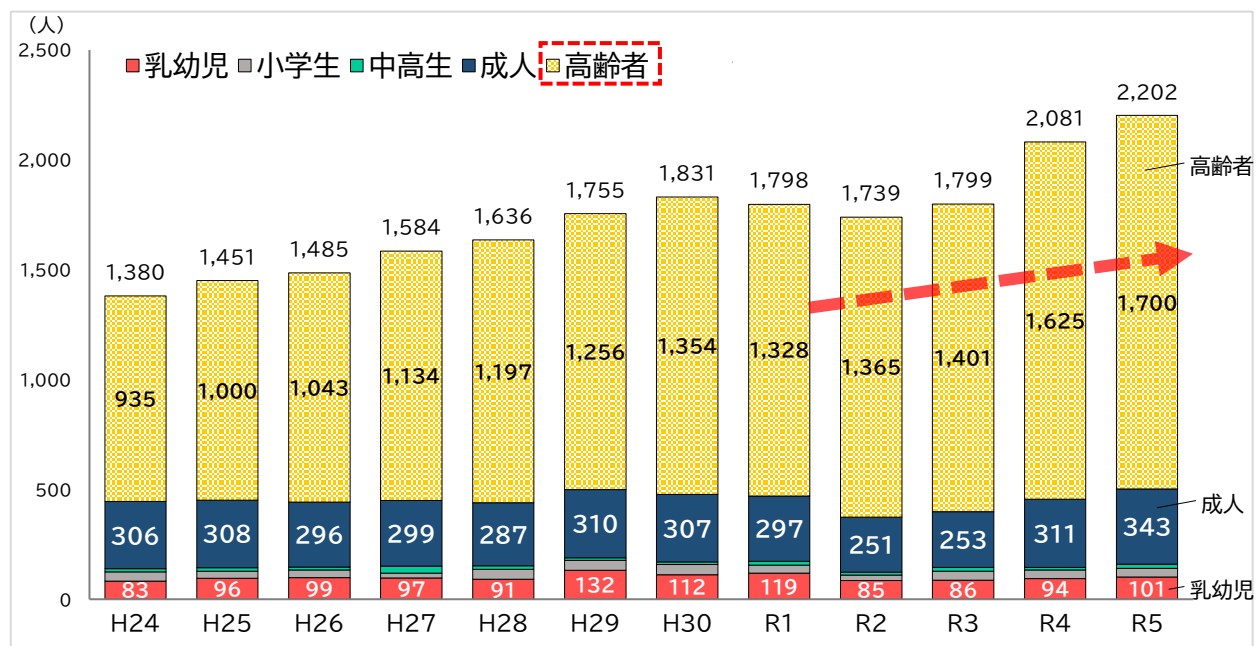
①[図 4-22]交通事故

交通事故による救急搬送人員数は長期的に減少傾向にあるが、中高生はコロナ禍前の値を上回って増加している。



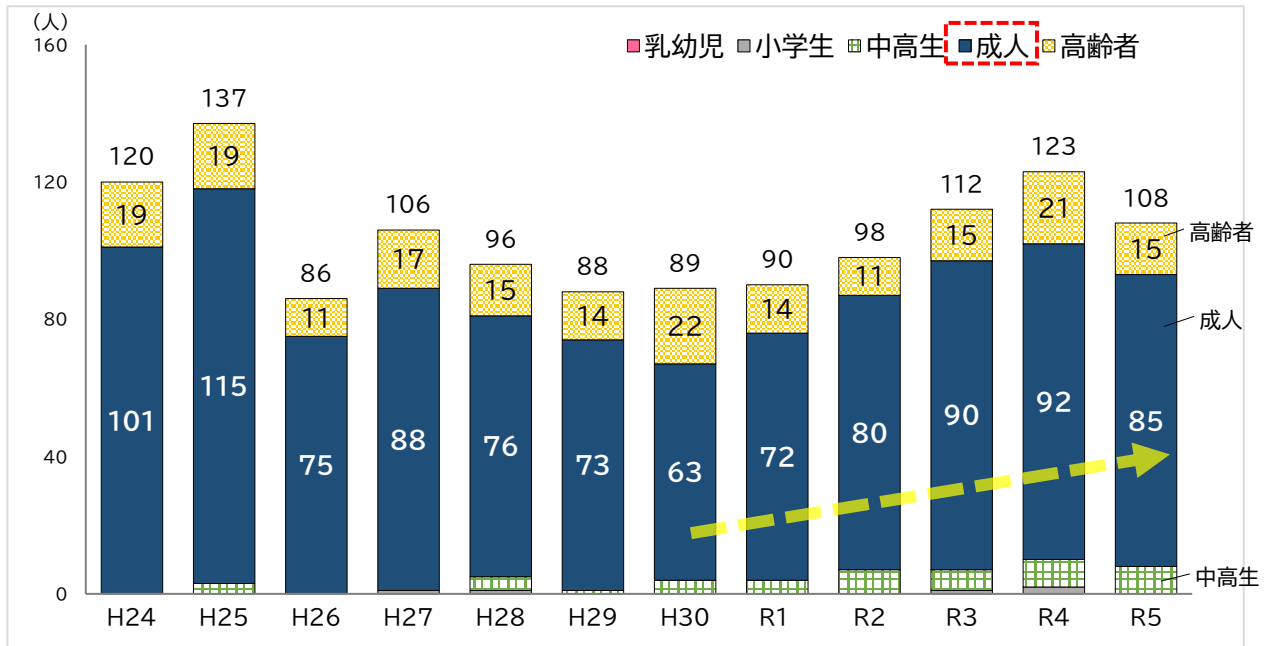
②[図 4-23]転倒

転倒による搬送人員数は、高齢者が増加傾向にある。



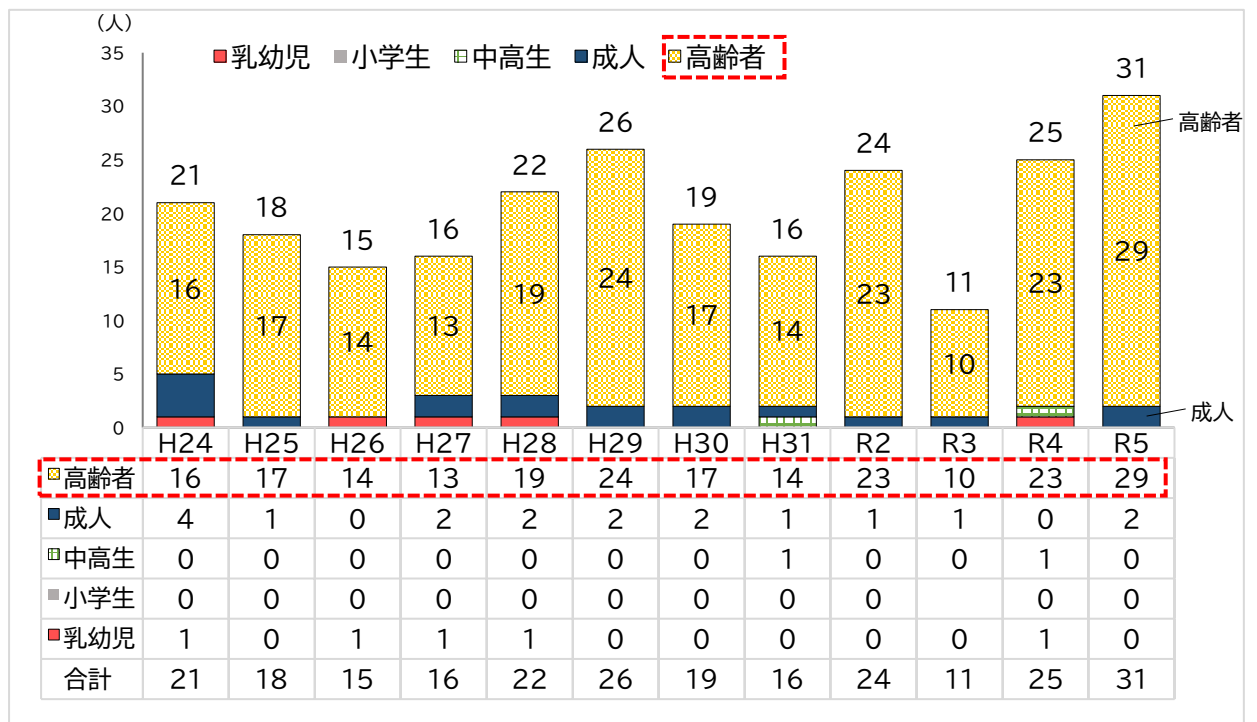
③[図 4-24]自損行為

自損行為による搬送人員数は増加傾向にあり、特に成人の搬送数が増加傾向にある。



③[図 4-25]溺死・溺水

溺死溺水による搬送人員数の多くは、高齢者が占めており、増加傾向にある。



(12) 発生場所「浴室（シャワー室、洗面所を含む）」の搬送人員数（65歳以上）

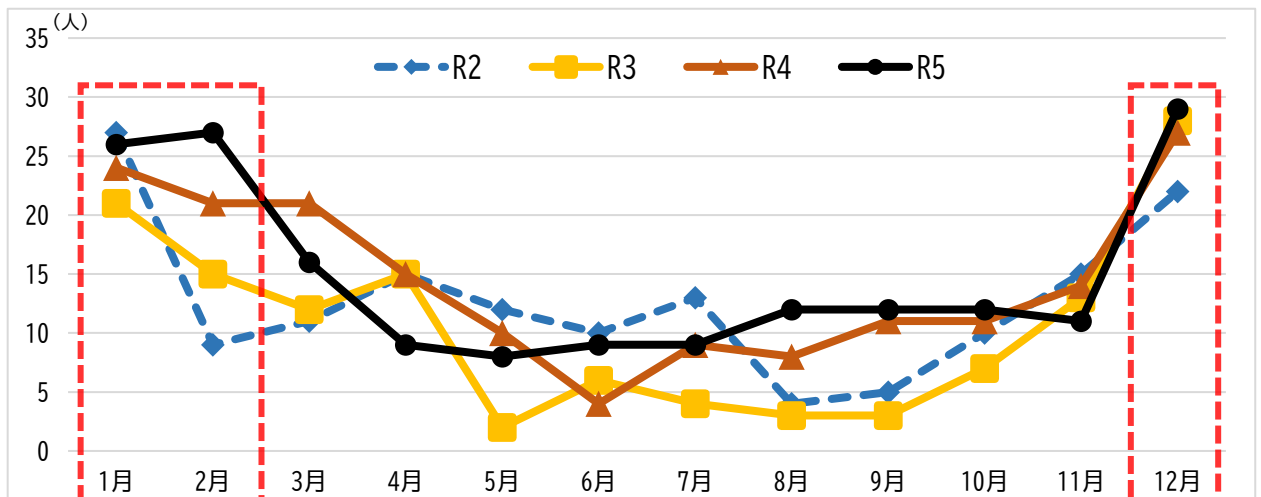
※火災、自損行為は除く

※外因によるものだけでなく急病等も含む

冬は搬送人員数が多くなる。

80～84歳になると急増する。

■[図 4-26] 月毎の浴室からの高齢者の搬送人員数（R2～R5）



■[図 4-27] 年齢ごとの搬送人員数（R2～R5）

n=637

